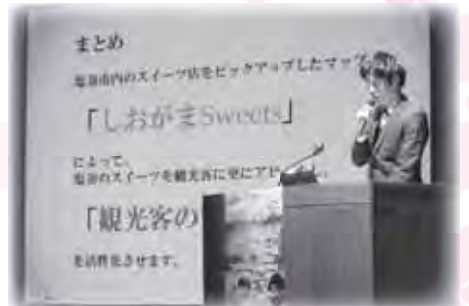


「人の力」がまちづくりの新たな活力に

本市では、市民や学生、NPO団体などたくさんの人たちが、塩竈を元気にし、塩竈の魅力を発信しようと、さまざまな活動に取り組んでいます。

新春座談会では、「人の力」や「人と人とのつながり」をキーワードに、本市の歴史や芸術文化、教育の分野で活動されるゲストの方々をお迎えし、本市のまちづくりについて、市長、議長とともにお話いただきました。



市長 あけましておめでとうございます。

長期総合計画、復興推進計画も残すところ3年になりました。二つの計画を議会と行政が一体となり取り組んできましたが、今だからこそやらなければならぬ課題について、皆さんからご意見を伺い、平成30年をすばらしい年にしてまいります。

司会 皆さまに平成29年を振り返りながら、自己紹介をお願いします。

齋藤 塩竈で調査研究活動をして20年近くになります。最近では経営学部とのゼミ合同で、塩竈の観光振興の調査を行い、昨年2月に遊ホールで「みなと塩竈ゆめプラン」と題して、学生たちがさまざまなアイデアやプランを提言するプレゼンテーションをさせていただきました。

さらに「NPOみなとしほがま(以下「みなとしほがま」という)のメンバーとして塩竈の歴史遺産を掘り起こし、外にむけて発信する活動もしています。

昨年は「市民が作る塩竈歴史案内」と題する小冊子を4冊同時に出版することができました。

平間 写真館の三代目として生まれました。塩竈の写真館は現在閉店していますが、3年前に東京に「平間写真館 TOKYO Y.O」を開きました。

ふるさとで写真館をしていないことに、後ろめたさのようなものを感じていて、それが震災後の活動の原動力になっているように思います。

小島 塩釜高校に勤務して13年目になります。平成28年4月から29年9月まで塩竈市教育委員会に出向し、昨年のインタ

ーハイ開催に携わりました。

現在高校の部活で、女子部員18人、男子部員3人に少林寺拳法を指導しています。

司会 ありがとうございます。

今回の座談会では、「人の力」や「人と人とのつながり」をテーマに、皆さんがこれまで取り組んでこられたことや携わってこられた活動についてお話を伺います。

「みなとまち」ならではの人のつながり

齋藤 「みなとしほがま」は震災前から活動していましたが、震災後はそこで培われたつながりが生きて、多くの廃棄寸前の古い歴史資料を保全できました。

また「亀井邸」、「旧ゑびや旅館」など取り壊しに直面した伝統建築の保存活動を行いました。そこでも多くの市民の支援が力になりました。

司会 塩竈の方は熱い思いを持っている方が多いと思うのですが。

齋藤 伝統行事やお祭りを大切にされていて、歴史に関心を持つ方が多いですね。今後はそうした市民の思いを外に向けて発信していくといいですね。

平間 私は、歴史とブランディングというのは、相互に近いものだと思っています。今後、塩竈がどのように情報発信していくのかと、歴史を調べることは、かなり近いことだと思っています。

市長 塩竈の良さは、もともとお住まいの方とほかの地域から移り住まれた方が、力を合わせて塩竈を良くしているところだと思います。そういう機運が強いところだと思います。



齋藤善之さん
東北学院大学経営学部教授
塩竈市長期総合計画
審議会副会長
NPOみなとしほがま会員



小島美貴さん
宮城県塩釜高等学校教諭



平間 至さん
写真家
しおがま文化大使

平間 みなとまち自体、そういう気質があるのでしょうか？

齋藤 みなとまちは外から船が入ってきて交易することで成り立つので、外の人を受け入れる気質がありますね。外に向けて開かれた世界なんです。

司会 平間さんが主催する「GAMAROCK(ガマロック)」は昨年で6回目の開催となりました。

平間 「GAMAROCK」は、「音楽・食・アート」を三本柱にしています。昨年は第一線で活躍している和田アキ子さんにも来ていただきました。1日だけのイベントですが、文化や食が共存する理想の空間ではないかと思っています。

そのほか、「塩竈フォトフェスティバル(以下「フォトフェス」という)」は、「ふれあいエスプ塩竈」が開館したことで、写真展などを開催できるようになり、その積み重ねが「フォトフェス」開催につながっていきました。

市長 「GAMAROCK」のきっかけは、東日本大震災の発災から約一カ月後に、平間さんとDragon AshのATSUSHIさんがコンサートをしてくれたことでしたね。

平間 音楽をきっかけに希望が見えたという話をたくさんいただいて、それが「GAMAROCK」につながっています。

司会 昨年夏のイベントと言えば、「みやぎ総合文化祭」や「南東北インターハイ」が宮城県で開催され、塩竈市も競技会場になり、高校生が活躍した年でもあり

ました。

小島 インターハイを通して、教育フェスティバルやみなと祭などにも参加させていただきました。

それがご縁で、高齢者施設で演武を披露するなど、地域の方々と触れ合えるきっかけをいただきました。

少林寺拳法がインターハイの正式種目になって昨年で4回目でした。これまで地域に密着した大会はなかったのでも、「温かく迎えられていると実感できた」という感想や「個人的にまた塩竈にきたい」という声もたくさんいただきました。

市長 開催地としてどのようなおもてなしができるかを考え、横断幕を作ってお出迎えしたり、駅に案内所を設置したりしました。

人の力を発揮する場所というのは、至るところにあって、行動に移すかどうかだと思います。

議長 イベントをやっていることを知らない市民の方も多いですよね。「みなと塩竈ゆめ博」も、市外の方からは、「塩竈は素晴らしいところ」という感想なのですが、市民の方はその良さがわからない。自分たちで、塩竈をPRできれば、と思います。

平間 地元に住んでいる人には、自分のまちが客観的にわかりづらい、それを教えてくれるのが外部の人だと思います。

小島 インターハイのPR活動でも、皆さんにお知らせするのは大変だと実感しました。



渡辺恵美さん(司会進行)
ベイウエーブチーフパーソナリティ



香取嗣雄 塩竈市議会議長



佐藤 昭 塩竈市長



▲リノベーションにより、観光・交流拠点、文化発信拠点として生まれ変わった「塩竈市公民館本町分室・塩竈市杉村惇美術館」(大講堂)



▲貴重な歴史的建造物として、保存が決まった「勝画楼」(写真中央)。造営は18世紀中期までとみられる。(文化財指定にむけた調査のため、現在は見学できません)



▲「NPOみなとしほがま」が出版した小冊子。「裏坂と道路改修記念碑」「勝画楼の歴史」、「まじの歴史」「銀河鉄道の夜と塩竈」の4集で構成される

歴史的文化と新たな文化が共存するまち

市長 昨年「勝画楼」をどうするかという時、所有者の意向であれば解体もやむを得ないだろうと思っていました。

しかし「貴重な資産を解体するのか」という数多くの声や、議会でも保全を求める意見書を探採いただきました。

平間 私も見に行ってみました。修復するのは大変だと思いました。

齋藤 今の保存修復技術があれば決して不可能ではないと思います。「みなとしほがま」も、市民として修復に向けて一緒に考えていけたらいいですね。

平間 「塩竈市杉村惇美術館」はリノベーションの仕方がとてもよかったですね。当時の面影を残して、あのような技術があるので、「勝画楼」の修復も期待してまいります。

市長 貴重な文化遺産としていくためにも、文化財指定が必要になると思います。そのためには、一定程度手を加えなければと思います。

齋藤 行政に頼るだけでなく、民間ファンドや基金なども含めた多様な支援方法も視野に入れて、そうした手段を活用することも、今にふさわしい文化財の残し方かもしれません。

市長 歴史的な文化資産はもちろんです。GAMAROCKや「フォトフェス」は、塩竈の新しい文化として定着しています。

古い文化と新しい文化が共存していることも塩竈の魅力です。

また、われわれが、どういう思いでまちづくりを進めているか、小中学校に限らず、高校の現場でも理解してもらえよう、進めていただけるとありがたいですね。

小島 インターアクト同好会を中心に、塩竈の藻塩を使った「バスソルト」を作る取り組みなども行っています。

「おいしさと笑顔がつどう」まちの実現のために

司会 昨年は、災害公営住宅がすべて完成したほか、塩竈市魚市場も完成しました。震災からの復興、そして未来を見据えた今後のまちづくりについて、お聞かせください。

平間 今年3月に「フォトフェス」を開催します。写真が仕事なので、文化的なことを中心に活動していますが、塩竈というまちを考えたとき、今後どのように海と関わっていくのが、未来を決定付けるのではないのでしょうか。

食も大切ですが、一般の人が海と触れ合うことができる場が必要ではないかと思えます。

塩竈の人たちを撮った「よろしく」という私の写真集があります。塩竈はいいところがたくさんあるのに「点」なんです。写真集を通して、点を線にし、線を面にした、そういう思いで作った写真集です。

市長 現在、北浜の土地区画整備事業を進めています。その一部に、市民の皆さんのための親水空間がまもなく出来上がります。



▲塩釜高校の生徒たちが作ったバスソルト「藻塩のささやき」。多くの生徒が商品開発に関わりました



▲「塩竈フォトフェスティバル2016」のポートフォリオレビュー。今年は、3月7日(水)～18日(日)に開催され、大賞者には写真集の制作権利が与えられます



▲「南東北インターハイ」では、会場内や駅の案内所で、高校生が、選手や関係者の皆さんをおもてなし





▲今年開館20年を迎える「ふれあいエスプ塩竈」で収録しました

司会 小島さんは、地元高校と塩竈との今後の関わり方について、どのように思われますか？

小島 学校で「塩竈の歴史」の出前講座を行っていただきました。生徒はもちろん、教員からも好評でした。地元のことを知らないということも、私も生徒たちも実感したので、自分がバトンをつなげられたらと思っています。

また、少林寺拳法に興味を持たれた中学校があれば、積極的に紹介したいと思っています。

齋藤 第5次長期総合計画のキャッチフレーズは「おいしさと笑顔がつどうみなとまち塩竈」ですが、平間さんや小島さんのお話はそれが網羅されています。

「おいしさ」は塩竈の食、「笑顔がつどう」は交流ですから、スポーツや音楽を通して人が集まるまちづくりをしていきたいという思いがそのキャッチフレーズには込められています。

昨年は魚市場が完成して観光客が親しめる施設になりましたが、さらに仲卸市場との連携を強めて市民や観光客が楽しめる「食」のテーマパークみたいになるといいと思います。

今や「食」は、観光最大の資源なので、塩竈といえば「食の都」というイメージができるような発信をしていくことが大事だと思います。塩竈はそれだけの食や文化の資産をすでに持っていますから。

司会 最後に皆さんから今年度の抱負などをお聞かせください。

平間 写真は手帳で、また深く関わることでできる面白いメディアです。

「フォトフェス」では、誰もが楽しめるコンテンツを考えているので、見に来ていただきたいですね。

また、これからも塩竈を応援してくれる方と塩竈を積極的につなげていく。それが私の役割だと思っています。

小島 少林寺拳法をさらに知っていただけのように活動を続け、塩竈市とのつながりがさらに深くなるよう手助けできたらと思っています。

齋藤 「みなとしほがま」では、「塩竈村風土記」という古文書を6年かけて解説してきましたが、今年はこれを一冊の本にして出版したいと思っています。

議長 昨年は「復旧復興道半ばで」というのが、あいさつの始まりでしたが、今年は、復旧復興の姿が見えてきます。長期総合計画などの計画最終年度には素晴らしい塩竈に生まれ変わっていることを約束したいですし、今日のお話を参考に、議会としてもバックアップしていきたいと思っています。

市長 日本全体が少子高齢化社会に突入している中で、それでも「塩竈に住みたい」と思っていたただけるまちをどう実現していくか、ということだと思います。長期総合計画の目標とする姿や、平間さんたちが取り組んでいる地域おこし、高校生の皆さんに、どういう形で本市に貢献いただけるか、私たちはけん引者として、取り組んでいかなければならないと思っています。

本日は皆さんからさまざまなご意見をいただき、感激しています。ありがとうございます。



▲昨年10月25日にグランドオープンした「塩竈市魚市場」



▲子どもから大人まで楽しめる「GAMA ROCK」。観客は、「塩竈の食・音楽・アート」を楽しみました



▲アマモ場や海の生き物観察など、海辺に親しむことができる干潟を作ろう。と開かれた「アマモの移植と干潟づくり」(北浜地区)